

第132回 日商簿記検定試験 1級 一原価計算一 解説

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保证するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

問題1 短期意思決定の追加注文の可否より出題

既存の2,000個分の材料Aは特殊原価概念により、埋没原価になる。よって追加注文を引き受けることで660,000円の現金収入が入ることと、常備材料である材料Aの再調達による現金支出720,000円を考慮し、注文を引き受けたほうが60,000円不利である。

問題2 短期意思決定のセールスマックスより出題

本問は、製品Aと製品Bの利益額を比較し、有利か不利かを判断する。比較に際して、制約条件となるのは製造時間となる。製品Bは製品A単位当たり製造時間で、2個の製品が製造できる。よって製品A単位当たり製造時間の利益額で比較すると、製品Aの利益額1,000円、製品Bの利益額1,200円となり、製品Bを製造したほうが有利であると判断できる。

問題3 長期意思決定の取替投資

問1 資料をもとにキャッシュ・フローを作成

	2013年度末	2014年度末…	(単位:千円)
現金流入額	①2,000 ②6,000	①2,000 ②6,000	
現金流出額	③2,400	③2,400	

①減価償却費(非現金支出費用)

$$\text{設備投資額} \times \frac{\text{耐用年数}}{\text{タックス・シールド}} = 2,000,000 \text{円}$$

$$(20,000,000 \text{円} \div 4 \text{年}) \times 40\% = 2,000,000 \text{円}$$

②現金流入額

$$\text{年間現金流入額} \times \text{タックス・シールド} = 6,000,000 \text{円}$$

$$10,000,000 \text{円} \times (1-40\%) = 6,000,000 \text{円}$$

③現金支出費用

$$\text{年間現金流出額} \times \text{タックス・シールド} = 2,400,000 \text{円}$$

$$4,000,000 \text{円} \times (1-40\%) = 2,400,000 \text{円}$$

④税引後差額キャッシュ・フロー

年間現金流入額合計	年間現金流出額合計	<b>解答</b>
8,000,000円	2,400,000円	= <b>5,600,000円</b>

問2

$$\text{各年度の正味キャッシュ・フロー} \times \text{年金現価係数} - \text{設備投資額} = \text{正味現在価値}$$

$$(5,600,000 \text{円} \times 3.6299) - 20,000,000 \text{円} = 327,440 \text{円}$$

問3

(1) A案の反復投資について4年後に設備Aを再度購入する点に注意。

	2013年度はじめ	2013年度末…	2016年度末	2017年度末…	(単位:千円)
現金流入額		5,600	5,600	5,600	
現金流出額	20,000		20,000		

上記キャッシュ・フローをもとに正味現在価値を算定する。

年間正味現金流入額	8年分の年金現価係数	8年分の正味現金流入額	
5,600,000円	× 6.7327	= 37,703,120円	
8年分の正味現金流入額	4年後の設備投資額	4年後の現価係数	初年度設備投資額
37,703,120円	- 20,000,000円	× 0.8548	- 20,000,000円
<b>正味現在価値</b>			
= <b>607,120円</b>			

(2) B案もA案と同様に8年分のキャッシュ・フローを作成する。

	2013年度はじめ	2013年度末…	(単位:千円)
現金流入額		5,600	
現金流出額	40,000		

上記キャッシュ・フローをもとに正味現在価値を算定する。

8年分の正味現金流入額	設備投資額	<b>正味現在価値</b>
37,703,120円	- 40,000,000円	= <b>△2,296,880円</b>

(3) には4年後の現価係数が入る。